

令和8年度全国学力学習状況調査の結果 京都市立小野小学校

4月23日に、本校6年生63名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語・算数)



2教科とも全国平均を下回る結果になりました。国語科に関しては全国平均を5%ほど下回る結果になり、算数科に関しては全国平均を10%ほど下回る結果になりました。

国語科より

国語科は、全国平均と比べて「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で正答率が下回っていました。特に「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する項目」で正答率が大きく下回っていました。「情報の扱い方に関する項目」に関しては、考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について問われた設問は全国平均とほぼ同じ正答率でした。ただ、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる設問では全国平均を大きく下回る結果となりました。逆に、「読むこと」の領域では全国平均を上回ることができました。文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかを問われた設問では、全国平均を大きく上回ることができました。

「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する項目」では、図を使って表現したり資料を整理したりする経験を増やしていきたいと思います。図などを使った関係の表し方について理解を深めるために、「読むこと」の領域では、授業の中で自分の考えをもちその考えをもとにグループや二人組など協働的な学びを積み重ねてきました。引き続き、主体的で協働的な学びになるよう授業づくりを進めていきたいと思います。

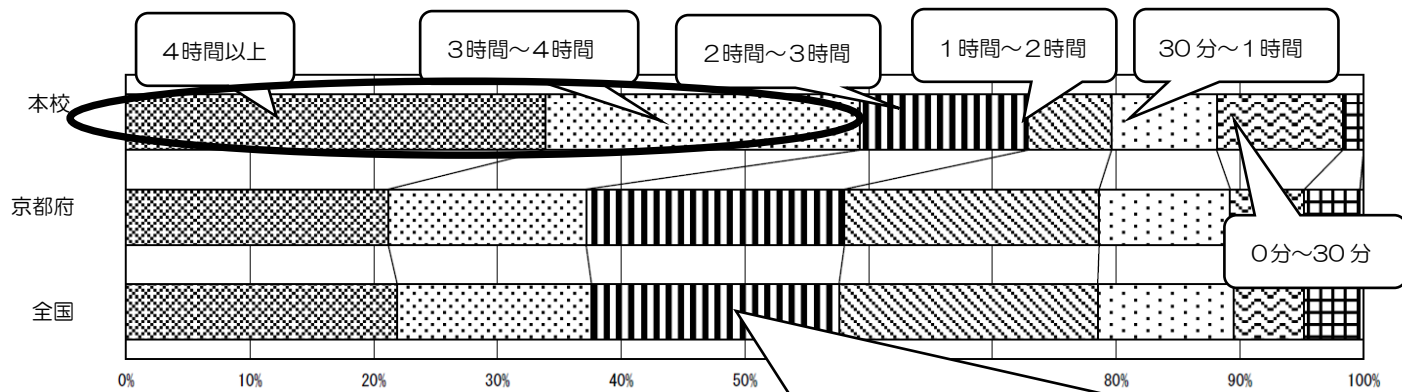
算数科より

算数科は、全国平均と比べて「数と計算」「図形」「測定」の領域で正答率が大きく下回っていました。「変化と関係」の領域では、単位量当たりの大きさを求めて二つの広場の混み具合を比べる設問で正答率高かったです。「データの活用」の領域では、二次元の表から、条件に合う数を読み取る設問で正答率高かったです。一方、正答率の低かった「図形」の領域では、立方体の体積の求め方や直方体を構成する面について問われた設問で正答率が低かったです。「数と計算」の領域では、単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉える設問で正答率が低かったです。

子どもたちが主体的に学習を進められた内容については、比較的正答率が高かった結果になりました。今後も、子どもたちが主体的に取り組める学習を目指して日々の授業を進めていきたいと思っています。また、定着していないものに関しては、繰り返し取り組むことで定着を目指していきたいです。

児童質問紙調査から①

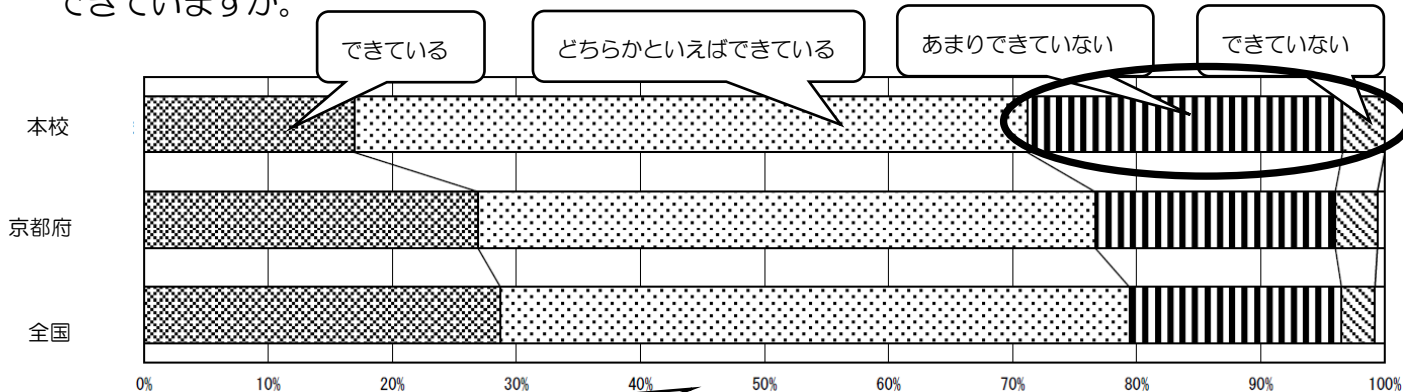
Q 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか。（ゲームや学習の時間は除く）



「普段、1日当たりどれくらいSNSや動画視聴などをしていますか。」という質問に、約60%（全国平均約40%）の児童が「4時間以上・3時間～4時間」と回答しています。「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。」という質問に、「1時間以上」と答えた児童が約30%（全国平均約50%）になっています。学習したことを定着させるためにも、家庭学習の充実が大切になってきます。放課後の過ごし方を見直して、お子様と一度お話ししていただくこともよいかもしれません。

児童質問紙調査から②

Q 分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分の学び方を考え、工夫することはできていますか。



「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」という質問に、約70%の児童が「できている・どちらかといえばできている」と回答し、約30%の児童が「あまりできていない・できていない」と回答しています。この先、困難な問題に直面した時に、問題を解決してく力が問われます。自己決定しながら問題解決していくことで様々な学び方を身につけていけたらと思います。学校でも引き続き、結果だけでなく過程を大切にできるような授業づくりを進めていきたいと思っています。